

令和 7 年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第 1 問（配点 25 点）

（設問 1）

財務諸表を利用して、診断および助言の基礎となる財務比率を算出する能力を問う問題である。

（設問 2）

問題文と（設問 1）で計算された財務比率から D 社と同業他社との戦略の違いを読み取り、財務比率を基に事例企業の財務的問題点とその要因を分析する能力を問う問題である。

第 2 問（配点 30 点）

（設問 1）

2 種の製品を扱う短期利益計画において、与えられた製品データを用いて損益分岐点売上高とそこでの各製品の販売数量を算出する能力を問う問題である。

（設問 2）

（設問 1）における事業の次年度短期利益計画において、各種データの変化と設定された販売条件の下で目標利益額を達成するための製品販売数量を算出する能力を問う問題である。

（設問 3）

（設問 2）のデータ変化に加えて、製品のモデルチェンジに伴う価格とコストの変化を踏まえて、2 つの制約条件が存在する場合における利益が最大となるセールスマックスを算出する能力を問う問題である。

第 3 問（配点 25 点）

（設問 1）

設備投資の経済性計算において、新設された設備が与えられた減価償却の下で耐用年数経過後に売却された場合の税引き後キャッシュフローを算出する能力を問う問題である。

（設問 2）

新規の設備投資において、投資が実施された場合に発生する毎期の差額キャッシュフローを、与えられた予測情報に基づいて適切に算出する能力を問う問題である。

（設問 3）

（設問 2）において算出された毎期のキャッシュフローから、当該投資案の正味現在価値を算出して投資の意思決定を行う能力を問う問題である。

第4問（配点20点）

（設問1）

新規事業のための投資資金の調達手段について、D社の財務状況や新規事業の特性などを踏まえて、適切に助言する能力を問う問題である。

（設問2）

新規事業が海外への輸出を伴う事業であることを踏まえて、想定しうる財務的リスクとそれに対処するための適切な手段について助言する能力を問う問題である。

以上